

実践

他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力を育てる国語科学習指導

～付箋を用いて「自分の考え」を「言語化」させ、「他者と交流」させる過程を繰り返す～

福井県立若狭高等学校 教諭

渡邊久暢



一 はじめに

中教審答申「学習指導要領等の改善について」(注)で示された「中学校国語科の改善」には、以下の叙述がある。

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では(中略)、自ら課題を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。

他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら課題を解決していく能力を培う授業が、今まさに求められていると言えよう。

本稿では他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力を育成する授業の在り方について、現代文の授業実践を基に考察を行う。

②他者との交流を行うためのツールとして、付箋を用いる。

本実践では、他者との交流を有効に行うためのツールとして付箋を用いた。付箋を用いることによって、交流時に思い浮かんだことを、すぐに書き留めることができる。



自分にとって参考になる考えをメモする生徒

付箋は以下の目的で使用した。

(ア) 自分にとって参考になる考えをメモする目的

右の写真は、他者のノートを読んで、参考になる考えを付箋にメモしている場面のもの。書かれたメモは順次、左の写真のように、机に貼り付けられていく。

この写真の生徒は、最初の段階では書いた

二 他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力を育てる二つの手だて

①「自分の考え」を「言語化」させ、「他者と交流」させる過程を繰り返す。

他者と相互に思考を深めたりまとめたりする能力を育てるためには、下図に示すような学習過程を経ることが有効である。

まず「自分の考え」をノートに「言語化」した上で、その考えを「交流」しながら、他者の良い考えを書き留めたり(「言語化」)他者の考えにコメントを付けたり(「言語化」)する。

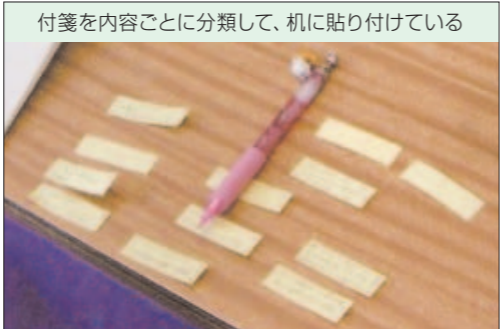
さらに、自分が書き留めたメモや、他者からのコメントを参考に「自分の考え」を再度ノートに「言語化」する。

このように、交流の前後に「自分の考え」を「言語化」させることが、他者と相互に思

順番にただ貼り付けていただけであったが、途中からは右に示すように自分の書いた付箋を、内容ごとに分類して机に貼り付けていた。

付箋を用いれば、このように一旦書いたものを分類整理して貼り直すことができる。

付箋を内容ごとに分類して、机に貼り付けている



(イ) 他者の考えに対して、コメントをつける目的

他者の考えにコメントをつける場合でも、付箋は有効に機能する。

他者の考えにコメントを書く場合、付箋に書く方が直接ノートに書き込むよりも、書く側も書かれる側も、抵抗感が少ないようだ。

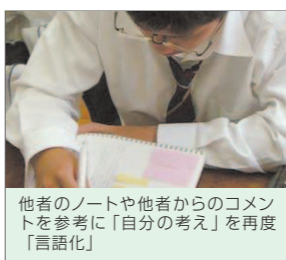
さらに、他者からもらったコメントを自分のノート上で再整理できる点も良い。

(ア)の場合も、(イ)の場合も、集めた情報をノート上で再整理でき、次の学習に生かすことができるという点で、付箋には大きな効果がある。

以上のように、交流を行うためのツールと

考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力の育成につながる。

「言語化」した「自分の考え」を「交流させる」



他者のノートや他者からのコメントを参考に「自分の考え」を再度「言語化」



「考え」を「交流」しながら、良い意見をもらったり、コメントを書いたりする(「言語化」)



「自分の考え」をノートに「言語化」

して付箋を用いることが、他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力の育成につながる。

三 実践の概要と考察

単元名

「意見文を書こう」(高二・現代文)

～河合雅雄『道具と文化』を読んで～

単元の主な評価規準

具体的な論拠を明確にした上で、自分の意見をまとめていく(書く能力)

学習過程 (全十二時間)

一次(四時間)

筆者の主張を理解する。

二次(三時間)

筆者の主張に対する意見文を書く。

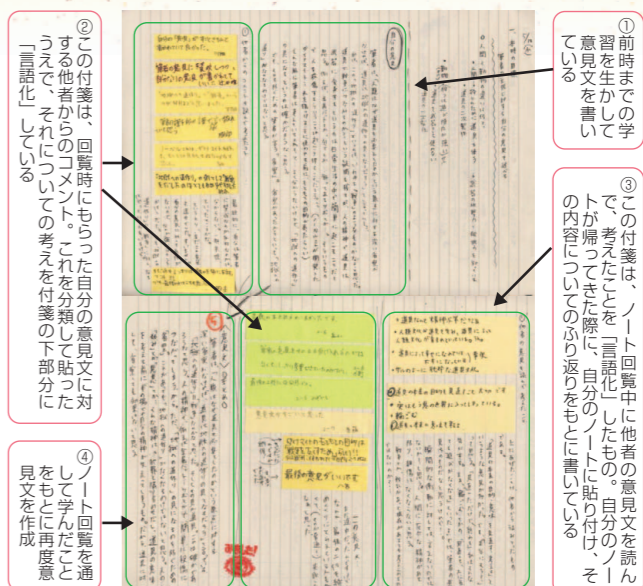
三次(五時間)

良い意見文の条件を考える。

ここでは、二次において行われた意見文の下書きを交流する場面について、生徒Aのノートを基に考察を行う。

この生徒は二時間の学習を、次頁上段のようにノート二ページにわたって整理している。

特集◆新学習指導要領における学習指導を考える



①前時までの学習を生かして意見文を書いている

②この付箋は、回覧時にもらった自分の意見文に対する他者からのコメント。これを分類して貼ったうえで、それについての考えを付箋の下部に「言語化」している

③この付箋は、ノート回覧中に他者の意見文を読んだが帰ってきた際に自分のノートに貼り付け、その内容について自分の考えを中心に書き加っている

④ノート回覧を通して学んだことをもとに再度意見文を作成

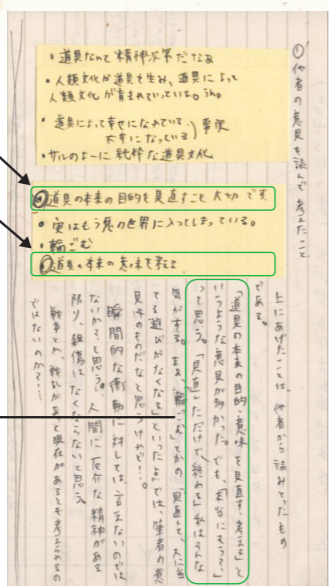
左①の部分には、前時までの学習を生かして意見文を書いている。

②の部分には、ノート回覧時に他者が貼り付けてくれたコメントを内容ごとに分類して貼り付けた上で、それについての考えを、付箋を貼り付けた下に書いている。

下段③の部分は、ノート回覧中に他者の意見文を読んで考えたことを「言語化」したものの。④の部分には、ノート回覧を通して学んだことを基に再度意見文を作成している。以下、ノートの叙述を詳細に見てみよう。

Ⅲ 回覧後に再度「自分の意見」をノートに書かせた場面の叙述

左は、他者のノートに書かれた意見を読んだ考えたことをノート上に整理している部分の抜粋である。交流を通して考えたことをノートに整理していく過程で、生徒一人ひとりの課題に対する考えがまとまっていく。



ノート回覧中に、付箋に自分が書いた多くの記述の中から、「道具本来の目的を見直すこと」に○、「道具本来の意味を考える」に○をして、他者の意見文に書かれていた上記の内容に対する疑問と意見が、このように書かれている。

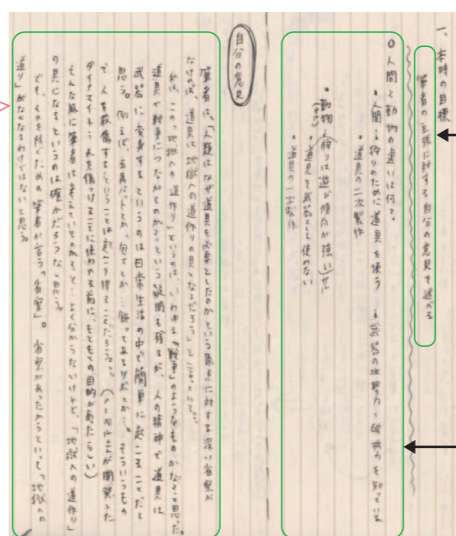
「道具の本来の目的、意味を見直す、考えが多かった。でも「本意」が「見直した」だけで終わる。私はそんな気がする。」

ここでは、他者のノートを読んで考えたこと、他者からもらったコメントを基に、再度自分の意見をノートに書かせた。

他者の意見文を読んで、自らの思考を深めていることが「『本意にそう?』って思う」などのノート記述から分かる。

Ⅰ 前時までの学習を生かして作った意見文

この生徒は筆者の主張に対する自分の意見を述べるという本時の目標に基づいて、人間と動物の違いをノート上に整理した上で、ノート左部分に自分の意見を展開した。



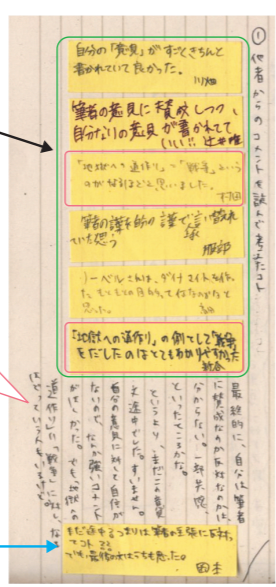
本時の目標

「動物との違いを整理している」

この生徒は、筆者の「道具は地獄への道作りの具となる」という表現の意味を、「道具」が「戦争」に用いられたということだと解釈した上で、筆者の主張に共感する意見文を展開している。

他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力を育てるために、まずは、テキストを読んで考えた自分の考えをノートに書かせる（自分の考えの言語化）ことが重要である。

左は自分の意見文に対する他者からのコメントを読んで考えたことが書かれている部分である。他者の意見を基に、自分の意見を振り返っていることが叙述から分かる。他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力を育てるために、交流の後に、再度自分の考えを言語化させることが重要であると言える。



自分の意見文に対して肯定的なコメントが書かれていた付箋を、ここに貼り付けている。この生徒は、「地獄への道作りの道具となる」という筆者の表現の意味を「戦争」という具体例を用いて説明した。この点について、クラスメートの複数からほめられている。

上段に貼られた肯定的なコメント、下段に貼られた否定的なコメントをもとに考えたことを、記している。これを受けて、再度意見文の作成に取りかかった。

自分の意見文に対して否定的なコメントが書かれていた付箋をここに貼り付けている。「筆者の主張に賛成なのか反対なのか分かりづらい」ことを指摘されている。

四 おわりに

下の記述は、この授業を行った後に生徒が書いた学習の振り返りである。

Ⅱ ノートの回覧



ノートを回覧しながら、
・参考になる考え
・コメント
を付箋に書き込んでいる生徒たち

次に、クラス全体でノートを回覧させることによって、意見の交流を行った。

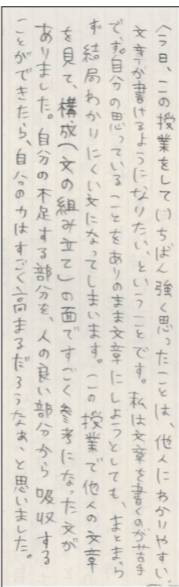
本実践では付箋を用いて、

○他者の意見文に書かれた参考になる考え

○他者の意見文に対するコメント

の二点を言語化させた。

他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力を育てるために、交流の過程で思い浮かんだ考えを言語化させることが重要である。



ここには、

○分かりやすい文章を書きたいという意欲がわいてきたこと

○他者の文章構成が大変参考になったこと。

○他者と交流しながら課題を解決していくことが、有効かつ重要であること。

が述べられている。他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力を育てることの重要性をこの生徒記述が示唆していると言える。

また、この能力の育成は国語科だけの課題ではなく、全教科の課題であることは新学習指導要領の方向性からも明らかである。今後、更なる研究を深めていきたい。

(注)平成二十年一月十七日 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(答申)より